



万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部事務局長
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)
印 刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

東日本大震災後に外科医を 勇気づけた ISW2011 横浜

Honorary President of LOC, ISW2011
Past President, ISS/SIC
慶應義塾大学名誉教授
国際医療福祉大学学長

北島政樹



第43回万国外科学会がAdelaideで2009年に開催され、さあ、いよいよ第44回ISW2011が横浜で6ヵ月後に開催と意気込んでいる矢先の3月11日、想定外の規模の東日本太平洋沖地震が発生した。今回の地震が阪神淡路大震災と大きく異なるところは大津波の被害、更に追い討ちをかけるような福島原発被害であり、風評被害も加わり、直後に外国人会員多数から不参加のメールが届いた。これを受け臨時LOC会議が東京ステーションカンファレンスセンターで開催され、対応策についての意見の交換が行われた。Ken Boffard会長もスイスの事務局もLOCの動向を見守っていたようである。LOC会議では風評被害の否定、あるいは2003年SARSで中止になったバンコクのISW学会時の災害保険の話題もあり、今後の加入問題の是非等が議論された。その結果、福島原発問題の動向や現状を分析、更に横浜という地域の安全性を確認し、開催を決定した。直後にBoffard会長やスイスの事務局にもLOCの決定を報告し、その後、両者のメール会議が頻繁に行われた事は云うまでもない。

更には、日本の回復状況のメッセージを送り続け、また私が市民公開講座で用いた大気圏に於ける放射能量、すなわち1960年代の米ソ原爆実験、スリーマイル島及び Chernobyl 原発事故の測定量と日本の現状を比較した1枚のスライドをAGA開催時に行われたISDSの理事会で若林理事に提示を促した。

一方、渡辺LOC会長や事務担当の片田講師の努力で国内外科系学会の多数の参加が漸次増加し、国外からの参加メッセージも増えつつあった。Ken Boffard会長やスイスの事務局の熱心な活動も強くLOCの背中を押してくれた事は看過する事は出来ない。

ISW 2011 Yokohama を 終えて

President of LOC, ISW2011
北里大学医学部外科学教授

渡邊昌彦



会員の皆様方のご支援、ご協力を賜りISW2011を無事終了することが出来ました。まずは組織委員会委員長として心より厚くお礼申し上げます。

今年、我が国は未曾有の震災と津波に見舞われました。追い打ちを駆けるように原発事故と放射能汚染に襲われ、この事態を重くみた諸外国の渡航制限は本学会の開催を危うくしました。3月の時点では、私自身も開催を諦めざるを得ないと判断しました。当然のごとくに、スイス本部を含め海外の理事らも開催の延期もしくは会場の変更を求めてきました。それを受け、4月初旬LOCの主要メンバーで会議を開きました。徹底的に討議した結果、ここで撤退する訳にはいかないと、全員一致で予定通りのISW2011開催を決定しました。その後、幸い日本支部会員の方々からは沢山の励ましのメールを頂き、渋るKenneth Boffard会長ら理事を時間をかけて説得し、組織委員会は再び動き出したのでした。とはいものの事務局は参加者の問い合わせや招請演者の相次ぐキャンセルの対応に追われました。プログラムの編成に支障が出て会員の皆様にご迷惑をおかけしたことを、この場を借りてお詫び申し上げる次第であります。

本学会は北島先生のご尽力で日本学術会議との共催が実現したため、開会式には皇太子殿下の御臨席を賜りました。殿下のご挨拶は被災者へのお悔やみと海外からの援助への御礼から始められ、外科学の進歩への期待で結ばれました。その後に開かれた懇談会の席上では、殿下は国内外の先生方と親しくお言葉を交わされ和やかなひと時を過ごされた御様子でした。殿下を定刻通りお送りした後、間

学会開催前日、8月27日にISWの理事会が開催され、Ken Boffard会長をはじめ多くの理事あるいはIntegrated Society各学会長から今回開催に向けて努力したLOCに対し、惜しみ無くその労に賛辞が送られた。

そして、当日LOCの企画で開催された「外科の進歩では幸せになったか」という市民公開講座には2000人近い応募があり、うち1000人の参加者が厳選された。外科学の歴史から始まり、体への負担が少ない内視鏡・腹腔鏡手術の普及、がんに対する検診や早期発見の大切さがわかり易く、木下貴之(国立がん研究センター乳腺腫瘍科長)、北川雄光(慶應義塾大学外科学教授)、若林剛(岩手医科大学外科学教授)、渡辺昌彦(北里大学外科学教授)の4人の講師により講演され、参加者が熱心に聞き入っていた事が印象深い。また女優の仁科亜季子さんやジャーナリスト鳥越俊太郎さんの講演も、ご自身が幾つかのがん手術を克服してきた話である故に説得力があり、パシフィコ横浜会場も熱気に包まれたことは云うまでもない。

学会初日8月28日には皇太子殿下ご臨席のもと、伝統と歴史あるISWの開会を記念すべく莊厳な式典が挙行され、皇太子殿下をはじめ、日本学術会議会長、厚労大臣、文科大臣、神奈川県知事及び横浜市長から、この困難な時に東日本で始めて行われた国際学会の開催に対する英断と、更には外科学会の今後の発展の期待など励ましのスピーチをいただいた。特に昨年、私が横浜パシフィコで開催した国際センチネルノード学会の開会式で挨拶をしていただいた林文子横浜市長からは、今回、横浜市での万国外科学会の開催は横浜市民に元気を与えて下さったと感謝の言葉をいただいた。

その後、9月1日まで各Integrated Societyと事務局のMr. Chris Storzと綿密に打ち合わせを行ったプログラムは順調に進み、外科学の現状と将来像が各会場で報告され、熱の籠ったディスカッションが行われたことは周知の事実である。

これらの学術集会での疲れを癒すが如く企画されたJapan Night、LOC会長招宴、各Integrated Societyの晩餐会で“Old Friends, Friends, New Friends”との会話が大いに弾んだことは期待した通りである。なぜならISW終了後、多くの外国会員から心温まる感謝のメッセージをいただいたからである。

髪をいれずに展示会場ではウエルカムレセプションを開かれ、会場は外国の先生方で埋め尽くされました。一瞬、私も横浜ではなく海外の何処かのパーティーに迷い込んだかの錯覚に襲われるほど国際色豊かなレセプションがありました。その場で行ったテープカットは殿下へのご進講やご案内と同様、一生にただ一度のよい思い出になりました。

学会初日の朝の受付は正しくISWの名に相応しい賑わいをみせており、その時点で本学会の成功を確信しました。会場では口演、示説会場とともに熱心な討論が展開されており、如何に多くの方が本学会を楽しみ活用されているかということを、肌身に感じることができたのは私だけではないと思います。初日の夜はJAPAN NIGHTと称する全員懇親会を大桟橋ホールで開催、教室員と秘書が浴衣姿で出迎えて、金魚すくいや射的など縁日の模擬店も配置しました。舞台では70年代のディスコシーンを再現しバンド演奏で参加者全員がダンスに興じ、内視鏡外科学会の有志による余興も登場して会は最高潮の盛り上がりに達したのでした。

学会は予定通り進行していく、夜は各integrated societyが催す夕食会が思い思いの会場で開かれ、国内外の先生方の親睦もさらに深まっていったに違いありません。これも参加した先生方にとりまして、国際学会ならではの過ごし方ではないでしょうか。開催直前に企画されたTsunami sessionは会場を感動の渦に巻き込み、続いて閉会式が執り行われ長くて短かったISW2011は幕を閉じました。

今回はボランティアとして100名近い教室員以外に、関東圏の医学生で構成されるMedical ESSの医学生約50名が、グリーンの揃いのポロシャツを着て期間中甲斐甲斐しく働いてくれました。彼らにとっても避けては通れない国際化の波を十二分に感じる良い機会となったことでしょう。

ISW2011は出月康夫先生、比企能樹先生、山川達郎先生、北島政樹先生、中尾昭公先生、北野正剛先生、北川雄光先生をはじめ会員の先生方、世界中の先生方の御協力と御支援のもとに開催することが出来ましたことを、改めて御礼申し上げます。

稿を終えるにあたって、本学会のため寝食を忘れ文字通り八面六臂の活躍をみせてくれた教室の片田夏也講師と事務局秘書の高橋凜さんに心から感謝します。

“ISW-2011 in Yokohama” に感動

Honorary Member, ISS/SIC
Past Councilor, ISS/SIC
北里大学名誉教授

比企能樹



1977年第27回SIC京都大会(齊藤漠LOC会長)は、新設された京都国際会議場で華々しく開かれた。

この年7月、私はISS/SICに入会して34年の歳月が経った。その間、今ではISWと言う殆どの大会に演題を携えて出席したが、1993年第35回香港大会(会長Prof.Trede)から学会組織に関わるようになり、責任を感じた。

ISS/SIC学会は5大陸の都市で2年に一度、大会すなわちISWが開催される。これを統括するのはISS/SICの会長で、本部事務局をスイスに置く。隔年の大会つまりISWは、それぞれの都市でローカルプレジデントLOC会長によって運営される。以前の京都開催の時、組織が二つあることのやり難さを、時のLOC-Treasurer Generalであった慶大外科・島田信勝教授が教室員の我々に慨嘆された。

ISS/SICが創立100年記念に出版した『A Century of International Progress and Tradition in Surgery』は、ISS/SICの公式記録である。ここに2年毎に就任した歴代の学会長名が写真入りで掲載されているが、実際に苦労した開催地LOC会長名が記録されてないのは残念だ。今後是非載せるべきと申し入れた。

日本人のISS/SIC学会長は、1995年リスボンで出月康夫教授、2001年ダーバンで北島政樹教授が各々2年づつ務められた。このリストには初代Kocherはじめ、Czerny、Mirizzi、Nyhus等、綺羅星が並ぶ。

1993年香港から日本代表となった私は理事出月教授と相談の結果、2度目の日本開催招致をスタートさせた。当時は日本からの参加者が少なかったため、同行の北里大学の嶋尾仁君と、急きょ日本から取寄せた京都観光のパンフレットと団扇を心細く会場で配った。折しも横浜みなとみらいの開発が緒につき横浜の国際会議場も建つと聞いて、次々回1999年の開催に間に合うと判断して横浜開催を主張したが、まだ出来てもいい会場より既存の国際会議場でとの出月理事のご意見で、京都開催のプレゼンテーションを行った。だが結果は準備不足もあり、アジアでの開催が続くという理由で敗れた。

ISW 2011 Yokohama を 終えて

Vice President of LOC, ISW2011
大分大学学長

北野正剛



本年8月27日—9月1日の日程で、パシフィコ横浜にて行われたISW2011は、海外700名国内1100を超える参加者を持って大成功裡に終了しました。北島政樹名誉会長、渡邊昌彦LOC会長に心からお祝いを申しあげます。歴史に残る大成功であると万国外科学会会長のKen Boffard教授や多くの役員より感謝の気持ちが伝えられています。小生も副会長として運営に参加できる機会を与えられ大変名誉に思っています。

さて、今回、開会式には国内外からの参加者700名もの見守る中、皇太子殿下のご臨席とお言葉を頂きました。これも日本学術会議の主催による国際会議であるからです。

逆に日本学術会議主催の国際会議には内閣府を通して皇室のご臨席をお願いいくということでもあります。多くの会員諸氏には少し理解しづらいと思いますので、この具体的な流れを小生が2008年に会長を務めた第11回世界内視鏡外科学会の際の経験も踏まえて少し説明したいと思います。まず、開催2年前に学術会議へ主催する学会の規模や内容にわたる数多くの資料を提出します。そして書類審査を通過した候補がプレゼンを含めたヒアリングを受け、評価の後、学術会議主催の国際学会にふさわしいと認定された国際会議のみが選定されます。おおむね年間7-8程度とかなりの激戦です。そして選定された後、皇族のご臨席をお願いに上がりますが、この時点では皇族のどなたがお出でになるか決まってい

1995年リスボン、1997年アカブルコ、1999年ウイーンでは作戦を横浜誘致に統一し招致活動を行ったが、多くの会員を引き連れたタイ・スマイルとお土産物作戦が功を奏し、ISW2003はタイ・バンコクの開催が決まり、当分はアジア開催の望みが無くなった。しかし、タイ開催はSARSという思わぬ伏敵で、第二次大戦以来の開催中止となった。だがこの度ようやく2015年バンコク開催が決まったと聞き、同じアジアとして嬉しかった。

その間に、私はNational Delegateから1997年に理事、更に2001年ブリュッセル、2005年ダーバンと2度のISWで副会長も任された。私に出来ることは学会首脳部とのコンタクトを密にし、日本の学問力とサッカー世界選手権で知名度が上がった横浜の啓蒙が誘致に繋がると信じ、活動を続けた。理事を継がれた山川達郎教授も更にISW横浜開催にも尽くされ、その後任に北川雄光教授が理事を託されることとなり心強い。

因みに、ISS/SIC学会の日本最初のNational Delegateは、1926年第7回ローマ大会での、九州帝国大学・三宅速教授である。

2001年第40回は学会発祥のベルギー・ブリュッセルで100年記念大会として行われた。ISWの目玉は、初日開会式後に行われるGrey Turner記念講演である。殊に100年の記念大会で行われるこの講演の指名を、何としても日本人でと考え、委員会での推薦を積極的にお願いした結果、遂に世界を代表する光栄の講演者指名を勝ち取った。

それに応え慶大外科・北島政樹教授は、教室を挙げて準備し見事に講演の責を果たされた。会場のスタンディング・オベーションの鳴り止まぬ拍手は、後の日本開催誘致に向けて大きな一步を印した。

スイスの本部の事務総長とは、1981年から剛腕Allgöwer教授、1993年からRüedi教授、1999年からSiewert教授、2001年からHarder教授と、4代にわたり家族ぐるみの付き合いをした。また本部事務担当のBertschi氏Storz氏とも長年に亘る交流がある。その皆さんに何度も来日してもらい、日本の、そして横浜の良い所を、実感し認識して頂くお手伝いをしてきた。

2007年第42回モントリオールで、北島ISS/SIC会長が横浜開催を決められ、今回のISW横浜の大盛況となったことで私の肩の荷は下りた。今年春に未曾有の大震災があり、放射能問題が起って開催すら懸念されたが、立派に運営された渡邊昌彦LOC会長とそのスタッフに心よりの賛辞を呈したい。本当にご苦労様でした。おめでとう。

ません。数か月前になってご臨席いただける皇族が決定され、時間があれば会長が会の内容などにつきご進講に上がります。

そして開会式におけるお言葉の内容やご到着時間、順路、開会式後のレセプションなどの綿密な打ち合わせの後に、数度の県警、ホテル、会場設営担当など総勢30名ほどでリハーサルが行われ、いよいよ本番です。

今回、小生にとって大変名誉なことに皇太子殿下の開会式後のレセプションの司会の大役をたまわりました。まず小生の「Ladies and gentlemen, thank you very much for your attendance at the reception with the Crown Prince. My name is Seigo Kitano, serving as the emcee of this reception. Now, Ladies and gentlemen, the Crown Prince of Japan will soon be entering this room. We would also like to introduce to you the President of Local Organizing Committee ISW 2011, Prof. Masahiko Watanabe. Please welcome His Imperial Highness the Crown Prince of Japan. With having the pleasure of the company of His Imperial Highness the Crown Prince,」のアナウンスにより、参加者の拍手の中、殿下のご入室です。そして、北島名誉会長の乾杯に引き続き、「Now, His Imperial Highness the Crown Prince goes to the tables and may talk with you」をきっかけにテーブルをまわられテレビ等で放映される園遊会での殿下のようにあらかじめ指定された少数の今回は10数名の方々と歓談されました。海外の著名外科医とともに、日本では地元神奈川県の黒岩祐治知事、林文子横浜市長さらには後援頂いた文部科学省の鈴木寛副大臣と歓談をお楽しみいただき、小生の「Now, His Imperial Highness the Crown Prince of Japan leaves the room」にてご退席されました。

参加者はみなこの大変貴重な名誉ある機会を楽しめていた様子で、司会を担当したものとして無事終了したことに安堵した次第です。

最後に、このような大変貴重な機会に頂いたことを北島政樹名誉会長、渡邊昌彦会長に心より感謝申し上げます。

万国外科学会 ISS/SIC の歴史の重みをかみしめて

—第27回ISWの想い出—

Honorary Member, ISS/SIC

Past Councilor, ISS/SIC

帝京大学医学部名誉教授・客員教授



山川達郎

1995年、ISS/SICのPresident出月康夫先生と日本支部長比企能樹先生のもとで日本支部事務局長に指名されて以来、日本支部長(2001～2007)、Councilor(2007-2011)を務めさせていただき、今回のProf. Kenneth D. Boffard会長のもと、渡辺昌彦先生をLOC会長として開催されたISW2011をもって、私の任務を全うすることができました。これまで賜った日本支部会員諸兄のご指導とご支援に改めて感謝申し上げる次第です。

日本支部事務局長時代、Viennaでの第38回ISW1999で、日本のISW招致の意を表明したことや在任中に出月康夫先生ならびに北島政樹先生が、それぞれISW1995、ISW2007のPresidentに選出されたことに加えて、アカブルコでのISW1995で石川浩一先生が、またモントリオールでのISW2007年で比企能樹先生が名誉会員に選出されたことなど、色々な想い出が走馬灯のように駆け巡ります。また今回のISW2011では、鮮鋭な想い出のある1977年9月3日発行のMainichi Daily NewsのISW1977特集版を私の書庫で偶然に見つけ、下記のようなタイトルと序文を入れ、図のような形で展示させていただきました。このような機会をお与え下さいました渡辺昌彦LOC会長に心から感謝申し上げる次第です。

万国外科学会日本支部会は、大正15年、Romeで開催された第7回ISW1926に出席された三宅速先生をはじめとする近藤次繁先生、塩田広重先生、関口蕃樹先生、杉村七太郎先生、秦勉吉先生、伊藤隼三先生、鳥鶴隆三先生、磯辺喜右衛門先生、後藤七郎先生、赤岩八郎先生、泉伍郎先生ら12名が集い、結成されたとされます。しかし、この日本支部会の歴史も、第1次ならびに第2次世界大戦時と1945年の終戦後の混乱期もあって低迷し、世界に目を向け、ISWを招致する機運が芽生えはじめたのは1960年代になってからのことあります。そしてBarcelonaでのISW1973で、遂に日本が第27回ISW1977年の開催国に選出され、同時にLOCのChairmanに斎藤溟先生が指名されたのを受けて、石川浩一先生(Scientific Committee)、島田信勝先生(Financial Committee)、駿河敬次郎先生(Liaison Committee)、綿貫皓先生(Steering Committee)らを委員長とする準備委員会が結成され、昭和52年9月3～8日、京都でISW1977が盛会裏に開催されました。先輩諸先生方のISW招致に向けた情熱とその準備に費やされた労苦が偲ばれます。このISW1977では、50題の日本人の発表があり、その中には、今は亡き懐かしい偉大なる教授連のお名前を見ることができます。私は、このISW1977中に、斎藤溟先生にご署名をいただき、1979年、入会を果たしましたが、このISW時、発表した内容は、論文としてWorld J Surgery, 1979に掲載されたこともあって、以来、私自身、大事にしてきた学会であります。

今回、お示ししたISW1977特集版Mainichi Daily Newsの一部は、スペースの関係で、会長、LOC Chairmanのご挨拶とChairmanを務められた先生方の顔写真と日本人が発表した50演題の抄録に限らせていただきましたが、展示された当時としては最新の医療機器が写真入りで掲載されていますので、この半世紀の驚異的な外科学の進歩とその中で生きてきた幸運を実感させられました。

History of ISS/SIC is the Picture of Progress in Surgery

-Memories of the XXVIIth ISW-1977; the First ISW held in Japan

Dear Friends,

Welcome you all to ISW 2011 held in Japan.

(中略)

In this newspaper, whole program of the 27th ISW, all Japanese LOC officers, Japanese members who chaired the session and the Japanese speakers with their abstracts are recorded. Moreover all Scientific Exhibitors contributed to this ISW 1977 were also introduced with their products in this news paper. I believe that you will realize the great advancement happened in the surgical fields for last 35 years when you see the topics focused on or surgical instruments exhibited at that period of time. Furthermore you will be also able to find out the names of your mentors and old friends in this newspaper. We are very much proud to be able to hold ISW 2011 in Japan under the tragic circumstances happened by East Japan Earthquake followed by radiation leaks at Atomic Power Plant on March 11th of this year. We, the Japanese member of ISS/SIC, express our sincere appreciation for Professor Kenneth D. Boffard, President of ISW 2011, Professor Masahiko Watanabe, Chairman of LOC, ISW 2011 and Councilors for their final courageous decision. All officers of the LOC have made an incessant effort to hold this Congress up to date. We believe that the great success of ISW2011 in Yokohama is promised.

Tatsuo Yamakawa, MD, FACS
Past Councilor, ISS/SIC (~2011)

渡辺昌彦先生をLOCのChairmanとして開催されたISW2011の成功は、ISS/SICの歴史ならびにISS/SIC日本支部会の歴史に記載され、永く語り継がれるものとなりましょう。本邦3度目となるISWが、できるだけ早い時期に開催されることを心から期待して止みません。



本広告の象は、映画「星になった少年」(2005年公開)に出演したアジア象の“ランディ”です。なお、耳と牙は別のアフリカ象との合成です。

新発売

5-HT₃受容体拮抗型制吐剤
薬価基準収載
劇薬、処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)
アロキシ® 静注 0.75mg
Aloxi® I.V. injection 0.75mg
パロセトロン静注製剤

効能・効果、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量、用法・用量に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

資料請求先(医薬品情報室)
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
http://www.taiho.co.jp/

提携先
HELSINN スイス

2010年11月作成

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュ グループ

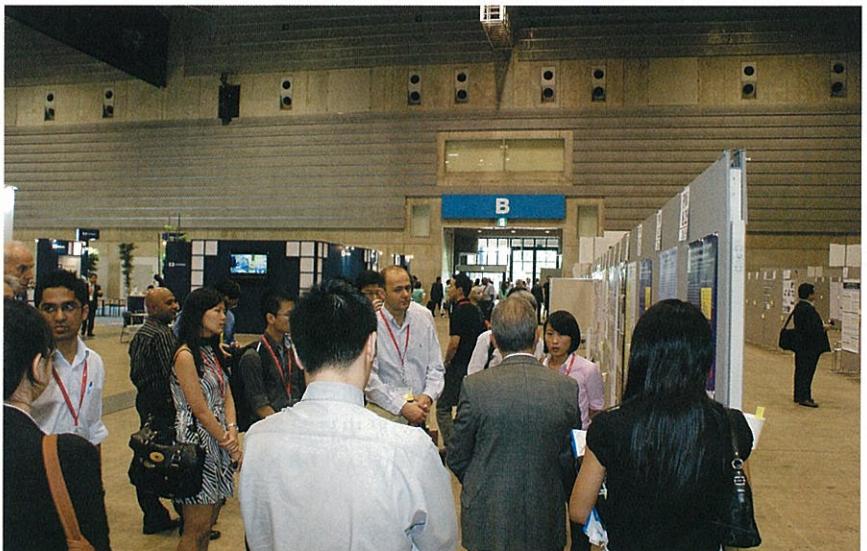
抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方せん医薬品^注
ゼローダ®錠300
Xeloda® カペシタビン錠
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること
⑧F.ホフマン・ラ・ロシュ社(スイス)登録商標

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。
http://www.chugai-pharm.co.jp

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY



パシフィコ横浜 メイン会場エントランス前



ポスター発表会場



三溪園でのディナー 右はBoffard夫妻



ディナーでの乾杯



Exploring the
INTERNATIONAL
ISW
August 28 →
Pacifico Yo

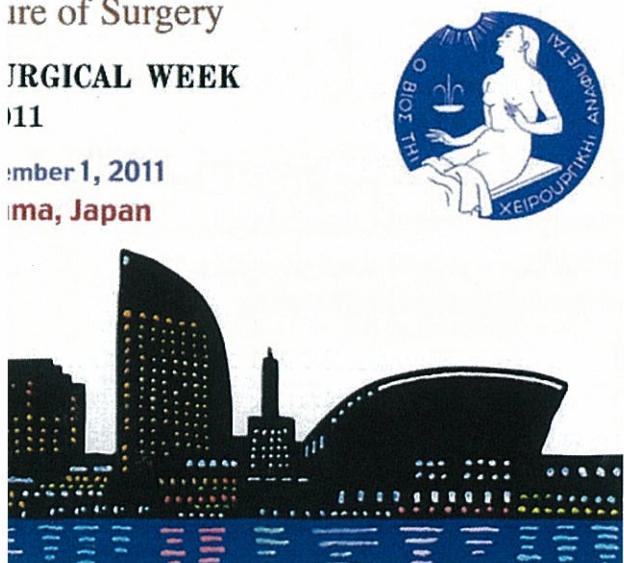


開会式 皇太子殿下とBoffard先生

ウェルカムレセプションでのテープカット。
Ljungqvist IASMEN会長 Delbridge IAES会長 渡邊LOC会長 林文子横浜市長

ディナーにてISS/SIC Executive Committee、次期会長、事務局長の方々とのワンショット。後列に北野先生、中尾先生

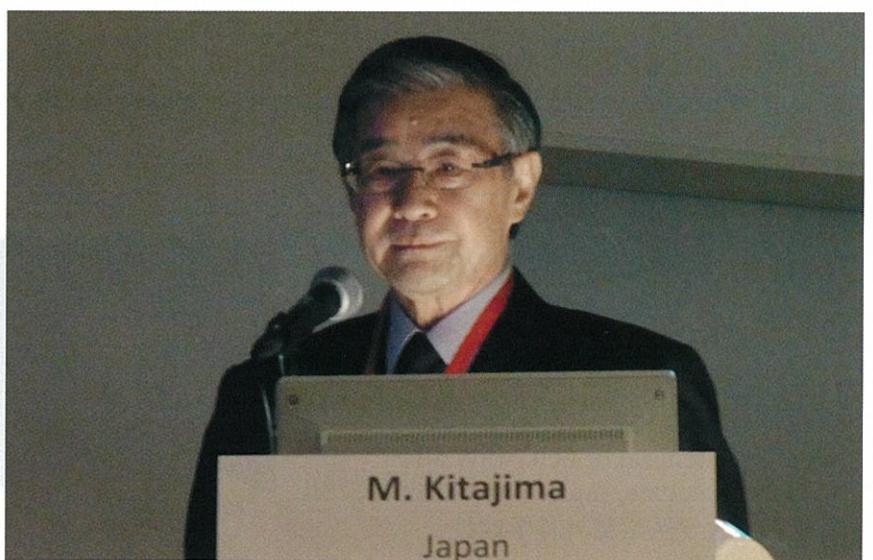
ire of Surgery
JRGICAL WEEK
11
ember 1, 2011
ma, Japan



皇太子殿下レセプション 右は比企先生



ISW1977 ヒストリーブースにて。左上にヒストリーブース資料を提供なさった山川先生と日本支部事務局長和田先生



北島先生 ISDS Lecture



Boffard ISS/SIC 会長 北島 ISW2011 名誉会長 /ISDS 会長 Schwab IATSIC 会長 Harness BSI 会長



女性外科医ネットワーキングブレックファスト



ジャパンナイト。左にISS/SIC理事・日本支部長北川先生



ジャパンナイトにて渡邊先生、片田先生をはじめ北里大学の先生方と秘書さんたちとのワンショット

第44回万国外科学会を終えて

Vice President, ISS/SIC

名古屋大学名誉教授

名古屋セントラル病院院長

中尾昭公



東日本大震災から6ヶ月という大変厳しい中での第44回万国外科学会の大成功、大変嬉しく思っております。とくにISW2011組織委員長として大活躍していただいた渡邊昌彦先生ならびに片田夏也先生をはじめとした北里大学の外科医局の先生方、本当にご苦労様でした。前回のアデレードでの学会から2年間があっという間に過ぎてしまった感じです。本年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、開催が大変危ぶまれたなか4月8日 Senior Committee Meetingが東京ステーションカンファレンスで開かれ、開催するかしないかの最終方針を決定しなければなりませんでした。しかし全委員が学術集会は開催しようという強い意見で一致いました。その時にすでに1706題の応募があり、1319題の採用がほぼ決定されていました。原発事故の影響で果たしてキャンセルがどれだけ出る

万国外科学会 ISW2011 を終えて

Councilor, ISS/SIC

Secretary General of LOC, ISW2011

National Delegate, Japan Chapter of ISS/SIC

慶應義塾大学医学部外科学教授

北川雄光



この度万国外科学会ISW2011が、日本支部会員の皆様の多大なるご支援を頂き、多くの困難な状況を乗り越えて無事成功裏に開催されましたこと関係者一人として厚く御礼を申し上げます。

渡邊LOC会長を中心とした北里大学外科一丸となったチームワークは、本当に素晴らしい、「熱いもの」がひしひしと伝わってきました。

あの東日本大震災の直後、渡邊昌彦先生を囲んで、LOC名誉会長北島政樹先生、ISS/SIC理事山川達郎先生、ISW2011副会長中尾昭公先生、LOC副会長北野正剛先生など組織委員の主要なメンバーが開催の是非を議論した日の緊迫感が昨日のことのように思い出されます。しかし、あの時の「開催に向けた」全員一致の

か手探りの状態でした。横浜は安全であり、是非訪日して欲しいと多方面へ呼びかけました。そして学会第1日目の8月28日を迎えるました。役員全員がパシフィコ横浜に集合し、オープニングセレモニーの打ち合わせに入りました。そして皇太子様をお迎えしてのオープニングセレモニーは垂れ幕一つなく、花一輪もなく簡素ななかにも莊厳な雰囲気で終了しました。とくに皇太子様が今回の東日本大震災に対して多くの国々よりお悔やみの言葉や医療をはじめとした暖かい援助をいただいたことに厚く御礼を申し述べられましたのは印象的でした。オープニングセレモニー後、皇太子様を囲んでティーパーティーが催され、親しく関係者と会話されました。私の前にお越しになり、今回の副会長であることを紹介された後「先生は5月にヘルシンキへ行かれましたね」とお尋ねになられました。私事ではありますが、この5月ヨーロッパ外科学会(ESA)の名誉会員に推戴され、ヘルシンキでその授与式に出席いたしました。何故こんな事までお知りになっているのか不思議に思いました。そのESAが開催されたヘルシンキでスイスにある学会本部のVictor Bertschi氏、Chris Storz氏と一緒に横浜大会への来日を学会期間中毎日会員に呼びかけてきましたがその努力の効果も少しはあったかと喜んでいます。さて、2年後のISW2013はヘルシンキで開催されます。安全で大変美しい町であります。次回は我々が元気な日本をとりもどし是非ヘルシンキへ参加しましょう。

決断がその後のエネルギーになって、あのような盛会に結びついたような気がいたします。とくにLOC会長を必死で支えて頑張った北里大学外科学教室員の皆様の素晴らしい心意気に感動いたしました。

また、今回は多くの海外の友人たちが「今だからこそ」の気持ちで積極的に参加してくれました。本学会の国境はもちろん、領域を越えた裾野の広さ、温かいネットワークを痛感いたしました。

本学会は普段交流することの少ない他領域の連携を深める大変よいチャンスであります。今回の横浜は「困難」を伴っていたからこそその不思議な一体感に満ち溢っていました。また、今回は渡邊LOC会長の固い決意に基づいて、若手外科医の参加費を大幅に安く設定し、多くの若者が生き生きと発表する姿が目につきました。ともすると世界のビッグネームが集まって、若手が少ないアンバランスに陥りやすい昨今のISWの状況に比べると、全く違う雰囲気(とくにJapan nightびっくりでした!)が満ち溢れていました。大変喜ばしいことだと感じました。

さて、私ことこの度、図らずも伝統あるISS/SIC理事を拝命致しました。日本支部長としてもまだまだ不手際の多い中で、このような重責を担うことができるかどうか大変不安ですが皆様方のご支援ご尽力を頂きながら、若手にとって魅力ある万国外科学会のあり方を模索して参りたいと存じます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

これまでも、これからも、 「患者思考」

患者さんのことを、自分のことのように考えると、見えてくるものがあります。まだ満たされていない患者さんのニーズに応えるために何ができるか。何を優先すべきか。

私たちヤンセンファーマは、その最善の答えを導いていくため、これからも挑戦を続けていきます。



ヤンセンファーマは、CNS(中枢神経系)、真菌症、鎮痛・麻酔、がん領域のリーディングカンパニーを目指す、「ジョンソン・エンド・ジョンソン」グループの製薬会社です。



ヤンセンファーマ株式会社
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2
URL: <http://www.janssen.co.jp>

ISW2011が成功裏に終了 –日本の復興支援の一助となる

Secretariat of LOC, ISW2011
北里大学医学部外科学講師

片田夏也



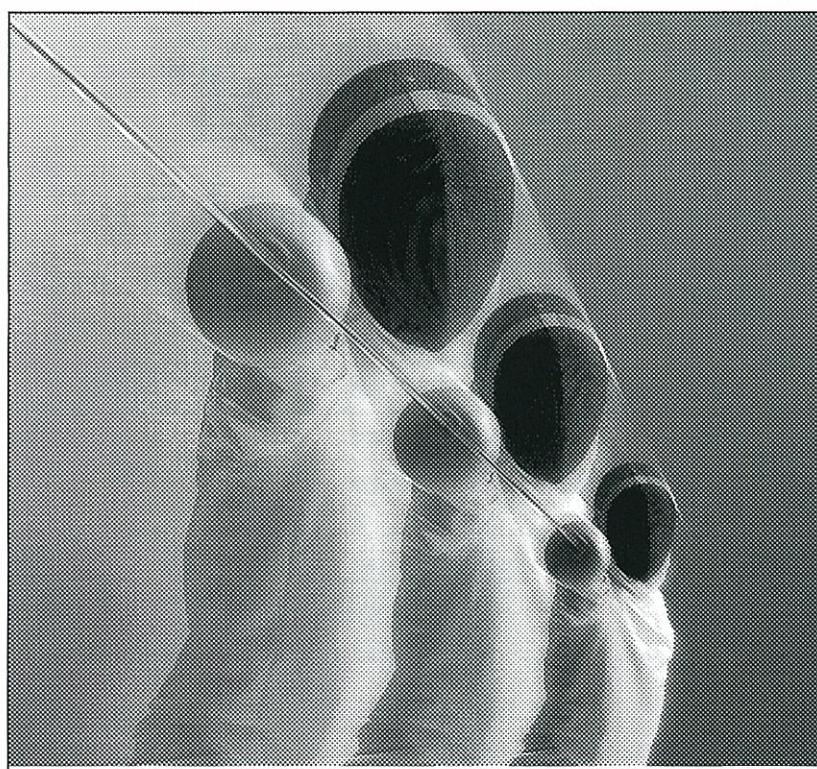
万国外科学会会員の先生方、ならびに外科系各学会の会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。去る8月28日～9月1日の5日間にわたり第44回万国外科学会(ISW2011)がパシフィコ横浜で開催され、皆様のお力添えのもと、盛会のうちに無事会期を終了いたしました。世界68カ国から総参加者数は1809名、内訳は国内1112名、国外697名となりました。事実を申し上げるならば、本学会は、3月11日に発生した東日本大震災の影響により一時は開催が危ぶまれました。しかしながら国内外の多くの方々のご理解と絶大なるご支援のもと決行の次第となりました。会場関係者によりますと、震災後ほとんどの国際学会が中止または延期となったということです。その中で本学会が震災後、東日本での初の大型国際会議となったことから、新聞、テレビなど広く報道されましたことを併せてご報告いたします。

本学会が日本学術会議の共同主催を頂いている関係で、会期に先立ち8月27日に市民公開講座「外科の進歩で人は幸せになったか」が開かれ好評を博しました。充実した内容の予告から定員を大幅に上回る応募を頂き、抽選の結果約1000名の方々の参加を得て、さい先の良いスタートを切ることができました。初日28日には皇太子殿下の御臨席のもと、開会式が行われました。殿下は英語での挨拶のなか、東日本大震災で国内外の外科医が救援活動に尽力したことにつれて感謝の言葉を述べられました。

れられ、「心から感謝します」と述べられました。その後、吉田兄弟による力強い三味線パフォーマンスに引き続き、展示会場にてウェルカムセッションが開催されました。半数は海外からの方々であったでしょうか、広い会場に参加者がところ狭しと賑わうなか、華々しいテープカットとなりました。翌29日からは、国内外の研究者による各種講演が行われました。質疑応答時間にはしばしばマイクの前に質問者の列が生じるほど熱の入った討論もありました。30日夜には、大桟橋ホールにて懇親会:Japan Nightが盛大に開かれました。周囲は横浜の心地よい夜風が吹き、一方場内はダンスパーティー会場と化し各国からの外科医達の熱気であふれかえりました。また、最終日の9月1日には特別企画として「Disaster Management」のセッションが行われ、震災時に志津川病院に勤務されており、米国タイム誌の2011年度の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた菅野武先生にもご講演を頂きました。災害時に外科医として、医師として何をなすべきかを再確認する機会となりました。同日午後には閉会式が厳かに執り行われました。

なお、今回初の試みとして、関東11医科大学から総勢51名のMedical ESSの医学生に学会運営ボランティアとして参加してもらったことを特筆いたします。学生達からは学会運営の手伝いが大変有意義な経験になったとの感想が寄せられました。研修医終了時にはこの中から多くの外科医が生まれることが期待されます。

今回、震災後にもかかわらず、このような盛大な会の事務局を担当することができました北里大学外科一同、感無量の想いでございます。被災地から、西日本から、そして風評を押して海外から多くの方々に参加頂いたことは、まさに日本の復興支援に繋がったものと確信しております。学会の収入の一部はお預かりした募金と合わせ日本赤十字社を通じて被災地に寄付させて頂きます。最後に、Kenneth Boffard ISS会長、北島政樹 LOC名誉会長、渡邊昌彦 LOC会長の強靭なリーダーシップのもと、国内外の数え切れない方々のご支援によりISW2011が成功に導びかれましたことに、心より深く感謝、御礼申し上げます。



カルバペネム系抗生物質製剤 処方せん医薬品^{注1)} [薬価基準収載]

 **FINIBAX®** 点滴用0.25g
キット点滴用0.25g

FINIBAX® (注射用ドリベネム水和物 略号: DRPM)
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■「効能・効果」、「用法・用量」,
「禁忌」、「原則禁忌」、「使用
上の注意」等については添付
文書等をご参考下さい。

FBX-KO-102B(A1) 審31434 ⑧登録商標 2011年5月作成

製造販売元【資料請求先】
 **シオノギ製薬**
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)
<http://www.shionogi.co.jp/med/>



胃炎・胃潰瘍治療剤

セルベックス® カプセル [薬価基準収載]
50mg/10%

〔テブレン製剤〕

製造販売元
 **エーザイ株式会社**

〒112-0088 東京都文京区小石川4-6-10
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン
TEL 0120-419-497 9~18時(土、日、祝日9~17時)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください

処方せん医薬品
注1) 医師等の処方せんにより使用すること [薬価基準収載]
プロトロンビン阻害剤

パリエット® 錠10mg
錠20mg

〔ラベプラゾールナトリウム製剤〕

PRT0904-1C 2009年4月作成

第31回万国外科学会(ISS/SIC) 日本支部総会 紙上開催 議事録

第31回万国外科学会日本支部総会は、当初、第111回日本外科学会定期学術期間中の5月29日に東京国際フォーラムで開催を予定していました。しかしながら、日本外科学会定期学術集会が紙上開催となったことを受け、日本支部総会も、実際に集まって行う形態ではなく、郵便などを用いて行う紙上開催となりました。

議案

- 前回議事録確認(日本支部ニュース第32号 3ページ)
- 会員動向(日本支部ニュース第32号 1ページ)
- 日本支部活動報告(日本支部ニュース第32号 1ページ)
- 2010年決算報告、2011年予算案(日本支部ニュース第32号 4ページ)
- その他

紙上開催手順

- 2011年5月下旬、全会員に紙上開催のご案内、議案、日本支部ニュース第32号を送付。
- 議案にご質問、ご意見のある会員は6月末日までに事務局までお知らせいただくようにご案内。

審議結果

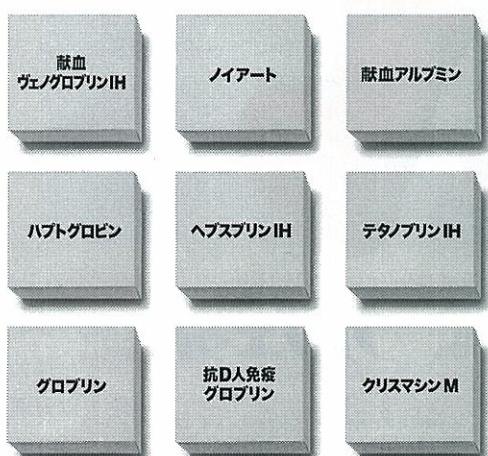
- 議案1~5に関して、会員より問合せ、意義、提案等なし。
- 以上より、議案1~4は承認されました。

以上

文責 和田則仁(日本支部事務局長)

私たちの薬剤をご存知のように、
私たちの会社も知っていただけませんか。

田辺三菱製薬グループ



ベネシスは血漿分画製剤を通じて、人々の「健やかでいきいきと輝く生活」に貢献します。

- 私たちは、田辺三菱製薬グループの一員であり、血漿分画製剤ならびに関連医薬品を扱っています。
- 私たちは、より一層の安全性重視の経営を行い、高い専門性と適切かつ迅速な対応で、信頼され続ける会社を目指しています。
- 私たちは、血漿分画製剤専門の医薬情報担当者(MR)により、更に質の高い情報の収集・提供を目指し行動しています。

たん白医薬品の
スペシャリティファーマ

 株式会社ベネシス
<http://www.benesis.co.jp>

万国外科学会日本支部よりお知らせ

日本支部では、日本の会員の皆様の名簿の管理・更新を常時行っています。所属、住所など変更がありましたら、どうぞ日本支部事務局までお知らせください。

日本支部ニュースレターの創刊号からのバックナンバーが万国外科学会日本支部のホームページで閲覧できます。

日本支部15年の歩みがわかります。

URL : <http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/iss-sic/>



Japan Chapter

ISS/SIC Japan Chapter

万国外科学会日本支部

万国外科学会日本支部事務局

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35 慶應義塾大学医学部一般・消化器外科内

Tel 03-5363-3802(直) Fax 03-3355-4707 Email: iss.sic.japan@gmail.com

[English Site]

万国外科学会日本支部ニュース

ごあいさつ

バックナンバー

日本支部の概要

第32号 2011年5月 (3.8 MB)

日本支部役員

第31号 2010年11月 (3.5 MB)

ニュースレター

第30号 2010年4月 (3.9 MB)

活動

第29号 2009年10月 (4.2 MB)

入退会

第28号 2009年4月 (4.1 MB)

リンク

年	春	秋	ISW開催地
2009年	第28号 3月	第29号 11月	アデレード
2008年	第26号 4月	第27号 11月	
2007年	第24号 4月	第25号 11月	モントリオール
2006年	第22号 3月	第23号 10月	
2005年	第20号 5月	第21号 11月	ダーバン
2004年	第18号 4月	第19号 10月	
2003年	第16号 6月	第17号 11月	中止 (バンコク)
2002年	第14号 4月	第15号 11月	
2001年	第12号 4月	第13号 10月	ブリュッセル
2000年	第10号 4月	第11号 11月	
1999年	第8号 3月	第9号 11月	ウィーン
1998年	第6号 4月	第7号 11月	
1997年	第4号 4月	第5号 11月	アカブルコ
1996年	第2号 4月	第3号 10月	
1995年	第1号 4月	—	リスボン

このほかホームページの内容は

- 日本支部役員の紹介
- 日本支部の活動内容
- 万国外科学会入会のメリット
- 入退会の手続き ※ホームページより入会の手続きが出来ます。

URL : <http://web.sc.itc.keio.ac.jp/surgery/ggs/iss-sic/application.htm>

随時最新の情報に更新してまいります。是非、ホームページもご利用下さい。